

# 三条市教育制度等検討委員会最終報告

## 次代を担う心豊かな子どもたちをはぐくむために



本委員会は、各種団体の代表の方々、市民の代表の方々によって構成され、教育制度等についてハード・ソフトの両面にわたり根本から幅広く検討を行ってきました。

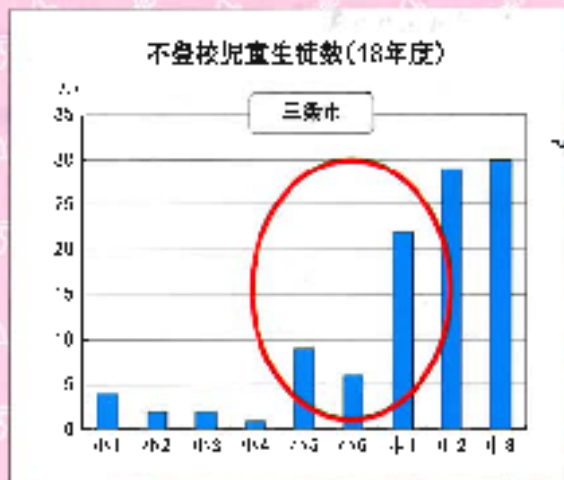
ここでは、最終報告の主な内容として

- 教育制度に関すること
- 学校の適正規模や施設設備・統廃合に関すること
- 教育内容の体系的編成に関すること

についてお知らせいたします。

# 三条市の学校教育を取り巻く現状と課題

## 不登校について



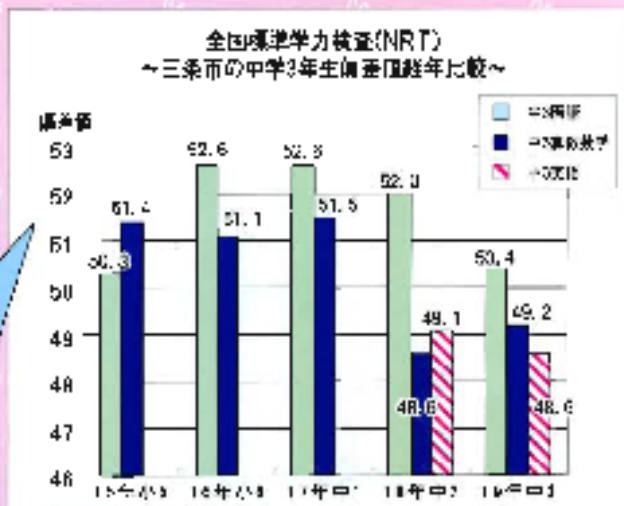
左の資料は、平成18年度の三条市の「中1ギャップ」(いじめ・不登校が中学校1年生になると急激に増えること)の不登校の状況を示すものです。

不登校児童生徒数は、5年生ころから増え始め、中学校でさらに増える傾向があります。

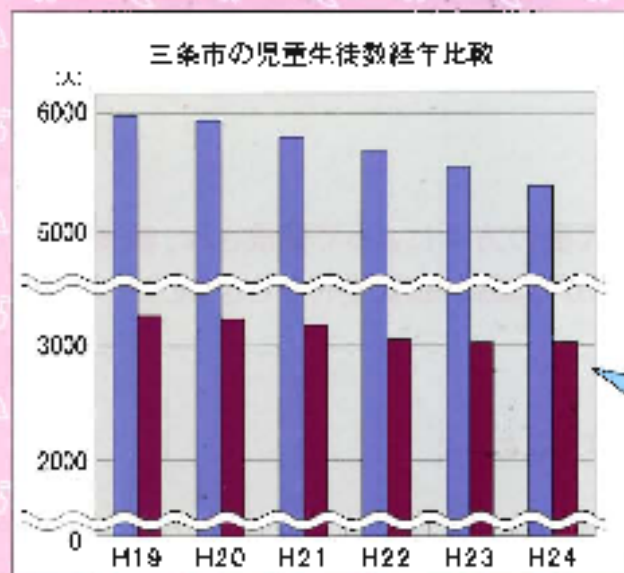
## 学力検査の結果について

右の資料は、現在の中学3年生のこれまでの学年での全国標準学力検査の結果の推移を表しています。

国語では、どの学年においても全国平均の偏差値50は超えています。中学校では、年々下がってしまう傾向にあります。算数・数学では、小学校では比較的良好な成績ですが、中学校になると落ち込みが見られ、全国平均を下回る学年もあります。英語も全国平均を下回っています。



## 児童・生徒数の減少について



左の資料は、三条市の小・中学校の児童数(左の棒グラフ)と生徒数(右の棒グラフ)の推移を表しています。

年々、児童・生徒数が減少し、平成19年度から24年度までの5年間で780名減少する見込みです。

左のような現状と課題があることから、教育制度等検討委員会では、下記のようにしていくことが今後の三条市の教育にとってよいのではないかと考えました。

## 重要なポイント

小中学校の9年間を連続した期間としてとらえ、現在の小学校6年間・中学校3年間という制度を弾力化していくこと

## 「教育制度に関すること」

- 小中学校の9年間を4年・3年・2年の区切りで考え、児童生徒の心身の発達に応じた小中一貫教育の導入を図ることが学力向上や生徒指導の充実などに有効である。
- 2学期制を実施している市町村もあるが、三条市では、当分の間は、現在の3学期制を継続実施することが相当である。
- 学校選択制については、本市は弾力的な現行制度の枠内で不都合なく対応されている現状から、実施する場合は、改めて議論する。



## 「学校の適正規模や施設整備・統廃合に関すること」

- 小学校は12学級以上、中学校は9学級以上を望ましい規模とする。
- 通学区域については、国の基準(小学校:概ね4km以内、中学校:概ね6km以内)を基本とし、今後、地域住民や学校現場の意見を踏まえて検討していく。
- 小中一貫教育の導入に向け、第一中学校区と第三中学校区をモデル校とし、第一中学校区には施設の現状を踏まえ、三条高校跡地を視野に入れた一体型の小中一貫校を、第三中学校区には、既存校舎の利用を基本とする併用型か連携型による小中一貫校の施設整備を検討し、平成24年度には、市内全域で小中一貫教育を実施する。

※「一体型」:同じ施設で、小学校1年生から中学校3年生(9年生)が共に生活をおくる。

「併用型」:近隣の小学校と中学校で5・6年生が中学校の校舎で生活したり、週に何時間か小学生が中学校で学習したりする。

「連携型」:近隣の小学校と中学校で校舎は別々で教師や児童生徒が移動して学習する。

## 「教育内容の体系的編成に関すること」

- 「小1プロブレム」解消に向け、幼稚園・保育所(園)から小学校への円滑な移行を実現するため、幼児教育と連携したカリキュラム等の編成や段差解消に向けた問題点や課題の整理を行う。
- ※「小1プロブレム」:基本的な生活習慣を身につけられないまま小学校に入学する子どもたちによって集団生活が乱れ、授業が成立しにくくなること。

- 「中1ギャップ」を解消し、子どもたちの夢や希望をはぐくみ、中学校への円滑な移行を実現するため、発達段階に応じた9年間の継続的な教育活動の充実を図り、小学校と中学校とがより連携しやすいプログラムの作成や環境をつくる。

**Q この答申のポイントは何ですか**

**A** 学力向上や生徒指導の充実など様々な課題を解決するために、幼稚園・保育所(園)から小学校、小学校から中学校へのスムーズな移行が大切なため、小中一貫教育の導入などが提言されています。

**Q どのように計画が進んでいくのですか**

**A** 最終報告説明会を中学校区単位で実施します。また、小中一貫教育推進委員会(仮称)を立ち上げ、モデル校を指定し検討を進め、課題や問題点等を協議し、計画を立てていきます。

**Q どのような効果が期待できるのですか**

**A** 学力向上、生徒指導の充実、地域学習の充実等の効果が期待されています。



**Q 幼・保、小の連携や小中一貫教育が、なぜ大切なのですか**

**A** 「小1プロブレム」や「中1ギャップ」の解消に向けて、よりよい教育環境づくりを進めます。

**Q 小中学校9年間を4・3・2の区分で考えるのはどうしてですか**

**A** 子どもたちの心やからだの成長が早くなり小学校5年生あたりが変わり目になってきています。小学校5年生から中学校1年生までの期間、小学校と中学校の先生方がお互いに協力しながら指導していくことが大切です。具体的には、「基礎充実期」(小学校1年生～小学校4年生)、「活用期」(小学校5年生～中学校1年生)、「発展期」(中学校2年生～中学校3年生)に分けて指導していくことが望まれます。

**Q 小中一貫教育では今までとどんなところが変わるのですか**

**A** 小学生と中学生が交流する活動を行ったり、三条市の教育資源を活かした学習を充実させ、体験的な学習や勤労観、職業観を育てる教育を大切にすることが考えられます。また、小学校5・6年生で一部の教科が教科担任制となることが考えられます。

**Q 幼稚園・保育所(園)との連携はどのようにしていくのですか**

**A** 幼稚園・保育所(園)と小学校低学年の先生が協力して、よりよい指導内容や指導方法を考えていく研究委員会を立ち上げます。

**Q 統廃合が進むのですか**

**A** 現在のところ具体的な計画はありません。今後、具体的な推進計画を立てていく中で、保護者や学校現場、地域の声を聞きながら、順次教育環境の整備を検討していきます。

**Q 通学しにくくなるのではないですか**

**A** 通学距離や通学時間によって、子どもたちの教育環境に格差が生じないことが基本だと考えています。通学区域については、通いやすく安心できるものとなるよう地域の実情を十分考え、意見を聞きながら検討していきます。

<お問い合わせ>

三条市教育委員会 教育総務課・学校教育課

〒949-1192 三条市新堀 1311 電話0256-45-1112

最終報告はホームページで公開されています。

<http://www.city.sanjo.niigata.jp/kyoiku>